

14.1 株式会社 DINS 堺 RAC 事業所

14.1.1 事業者情報

名 称	株式会社 DINS 堺 RAC 事業所			
本社住所	〒592-8331	大阪府堺市西区築港新町四丁 2 番 3 号		
資本金、出資金	96,000 千円			
従業員数	47 名			
設立年月日	平成 16 年 3 月 25 日			
URL	http://www.dinsgr.co.jp/dins_sakai/			
事業概要	24,000m ² の敷地に、11,000m ² の建屋という広大な敷地にて建設現場や工場からの混合廃棄物を受け入れ、高度選別によって製紙や鉄・非鉄の精錬工程に提供するマテリアル原料を確保。また、良質な可燃物やリサイクル原料は、大栄環境グループの各施設へ送られ、サーマルリサイクル及び路盤材や無水石膏、RPF などの再生製品となり、再資源化の促進に貢献している。			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	株式会社 DINS 堺 総務グループ		
	担当者名	室賀 英治		
	連絡先	電話番号	072-245-7777	
		FAX	072-245-7930	
E メールアドレス		muroga8584@dinsgr.co.jp		

14.1.2 技術情報(1)

キーワード	収集、運搬、保管、非飛散性アスベスト			
技術名称	産業廃棄物の収集運搬、積替え保管			
技術の分類	収集・運搬・保管			
目的・用途	排出事業者様の現場(建築現場、解体現場、工場等)から排出される廃棄物を適切に運搬する。			
特長	排出事業者様の現場にコンテナの設置を行い、お客様の要望に応じて適時引取りに伺う。運搬時に飛散・漏洩する事が無いよう、コンテナ上部にシート掛けを行う。また、非飛散性アスベストについては、客先にてフレコン2重梱包を行って頂き、弊社保管ヤードにて適切に積替え保管を行う。			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	産廃	古紙	受入条件、形状	見積書による
	一廃・産廃	廃木材	受入条件、形状	見積書による
	産廃	繊維くず	受入条件、形状	見積書による
	産廃	可燃ごみ	受入条件、形状	見積書による
	産廃	廃プラスチック類 (PET除く)	受入条件、形状	見積書による
	産廃	ゴムくず	受入条件、形状	見積書による
	産廃	ガラスくず	受入条件、形状	見積書による
	産廃	陶磁器くず	受入条件、形状	見積書による
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	収集運搬、中間処理、最終処分(グループ会社処分場)の一連の処理委託により、安心・信頼して廃棄物処理を委託出来る。	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	全車NOx・PM法基準適合車を使用。弊社はエコアクション21を取得しており、アイドリングストップ、エコ運転を心掛けている。エコ運転については、デジタコにて点数管理。	

14.1.3 技術情報(2)

キーワード	破砕、選別、高度選別、屋内処理、建設系廃棄物、工場系廃棄物			
技術名称	産業廃棄物の破砕・選別			
技術の分類	破砕・選別			
目的・用途	排出事業者様の現場（建築現場、解体現場、工場等）から排出される廃棄物を適切に破砕・選別し、有価物、リサイクル原料、可燃物、不燃物に分け、循環型社会を構築する。			
特長	高度選別施設、屋内処理、500t/日の処理能力			
設備等の写真	 <p>粗選別ヤード 一次手選別コンベア 破砕機 比重差選別機</p>			
処理フロー図				
廃棄物の種類	産廃	古紙	受入条件、形状	見積書による
	一廃・産廃	廃木材	受入条件、形状	見積書による
	産廃	繊維くず	受入条件、形状	見積書による
	産廃	可燃ごみ	受入条件、形状	見積書による
	産廃	廃プラスチック類 (PET除く)	受入条件、形状	見積書による
	産廃	ゴムくず	受入条件、形状	見積書による
	産廃	ガラスくず	受入条件、形状	見積書による
	産廃	陶磁器くず	受入条件、形状	見積書による
供給資源・製品	廃プラスチック類(梱包)		形状	梱包物
	ダンボール		形状	梱包物
	廃石膏ボード		形状	破砕後物
	スクラップ		形状	

アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例)処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	収集運搬、中間処理、最終処分(グループ会社処分場)の一連の処理委託により、安心・信頼して廃棄物処理を委託出来る。
	製品購入者側のメリット	例)環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	廃棄物から捻出した原料をリサイクルすることによって、製品購入者側の環境負荷削減活動に寄与出来る。
	その他	例)受賞歴、見学受入者数等	平成 24 年度 RAC 事業所見学者数 228 名

14.1.4 実績情報


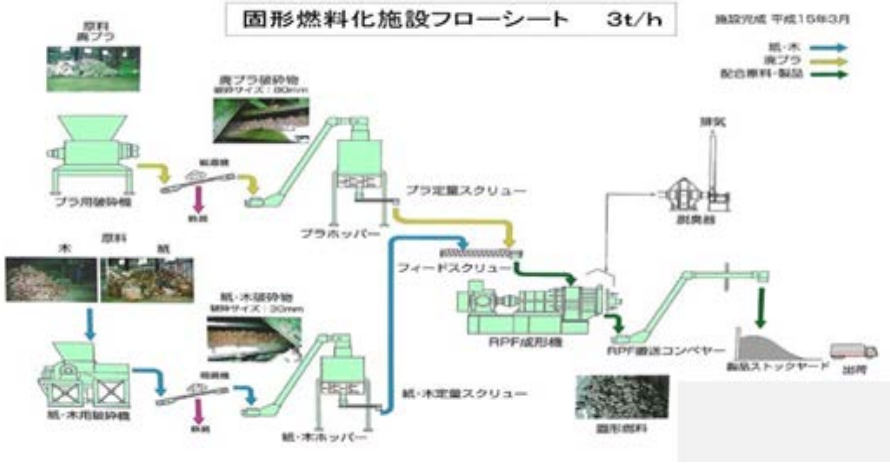
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	混合廃棄物	67,795	61,818	t
	廃プラスチック類	1,863	4,447	t
	紙くず	14	20	t
	木くず	1,773	1,420	t
	がれき類	7,624	1,952	t
	ガラス陶磁器くず	3,570	5,405	t
	金属くず	216	5	t
受入可能量	廃プラスチック類	500	500	t
	紙くず			
	木くず			
	繊維くず			
	ゴムくず			
	金属くず			
	ガラスくず			
	がれき類			
販売実績量の推移	製鋼原料	355	1,014	t
	RPF 原料	483	990	t
	製紙原料	6	103	t
	廃プラスチック (塩ビパイプ)	0	28	t
	再生プラスチック原料	0	19	t
主な供給先	大栄環境グループ、セメント会社、スクラップ会社、古紙リサイクル業者			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	収集車両追加			
その他実績	産業廃棄物処分業許可・一般廃棄物処分業許可 計量証明事業登録 エコアクション 21 認定 消防協力事業所 登録(堺市消防局)			

17.3 株式会社オガワエコノス

17.3.1 事業者情報

名 称	株式会社オガワエコノス			
本社住所	〒 726-0013	広島県府中市高木町 502-10		
資本金、出資金	10,000 千円			
従業員数	208 人			
設立年月日	昭和 27 年			
URL	http://www.o-econos.com			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬及び中間処理・再生 ・下水処理施設及びごみ処理施設の維持管理 ・浄化槽の維持管理及び清掃 ・固形燃料(RPF)の製造及び販売 ・肥料の製造及び販売 			
事業所写真	 <p style="text-align: center;">RPF製造施設（A棟） 全景 (床面積 1260㎡)</p>			
問合せ先窓口	部署名	鶉飼工場		
	担当者名	野津山 竜二		
	連絡先	電話番号	0847-47-6110	
		FAX	0847-47-6112	
Eメールアドレス		http://www.o-econos.com		

17.3.2 技術情報

キーワード	紙くず・木くず・廃プラ、固形燃料			
技術名称	RPF 製造技術			
技術の分類	固形燃料化(RDF,RPF)			
目的・用途	RPF は、石炭の代替え燃料として大手製紙会社のボイラーに使われています。			
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・価格が石炭の 1/2～1/3 と安価である。 ・燃え殻が石炭より少ない。 ・CO2 排出量が石炭より少ない。 			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	一廃・産廃	廃木材	受入条件、形状	
	一廃・産廃	古紙	受入条件、形状	
	一廃・産廃	繊維くず	受入条件、形状	
	一廃・産廃	汚泥	受入条件、形状	含水率の低い物 (乾燥・炭化汚泥など)
	一廃・産廃	廃プラスチック類 (PET除く)	受入条件、形状	塩素含有物を除く

供給資源・製品	RPF		形状	φ38mm、長100mm
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却埋立処分されていた廃プラ、木くず、紙くずを固形燃料化(RPF)する事によりリサイクルが可能になり、排出者はゼロエミッションを向上することができます。 ・塩素を含まない廃プラであれば、どんな種類の廃プラでも受け入れ可能です。 	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減量: RPF 760g-CO2/kg (石炭との比較) ・販売価格 : RPF 4~6円/kg ・発熱量 : 6,000kcal/kg(石炭相当) 	
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	<ul style="list-style-type: none"> ・1500人の工場見学を実施。(平成24年度実績) ・平成15年中国地域ニュービジネス優秀賞を受賞。 ・平成17年(財)クリーン・ジャパンセンター資源循環技術・システム奨励賞を受賞 	

17.3.3 実績情報

	品目名	平成20年度	平成24年度	単位
処理実績量の推移	廃プラ	6,000	6,900	t
	紙くず、木くず、繊維くず	3,800	4,500	t
受入可能量	廃プラ	-	13,000	t
	紙くず、木くず、繊維くず、汚泥	-	9,000	t
販売実績量の推移	RPF	9,000	11,000	t
主な調達先	・繊維製造業、プラスチック製造業、木工業、解体業、同業者			
主な供給先	・製紙会社			
設備投資の実績 (過去5年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・5,000万円を投じて、三軸破碎機から一軸破碎機に変更したことにより、電気使用量が17%削減した。 ・500万円を投じて、塩素分析機を購入したことにより、原料が塩素含有物かの判断が容易となり、RPFの塩素含有率が低減した。 ・350万円を投じて、粉じん対策としてミスト噴霧設備を設置した事により作業環境が改善された。 			

17.7 株式会社エコログ・リサイクリング・ジャパン

17.7.1 事業者情報

名 称	株式会社エコログ・リサイクリング・ジャパン			
本社住所	〒 720-0831	広島県福山市草戸町三丁目 12 番 5 号		
資本金、出資金	240,000 千円			
従業員数	5 人			
設立年月日	平成 6 年（1994 年）3 月			
URL	http://www.ecolog.co.jp			
事業概要	<p>繊維製品の回収循環型マテリアルリサイクルのネットワークを構築、運営。これまで分離技術がないためリサイクルが困難とされていた天然繊維とポリエステル混紡繊維製品について、酵素反応を利用して、天然繊維部分を分離・分解し、分離されたポリエステルの再生原料化を行います。混紡繊維製品をリサイクルする際に課題となる繊維成分の種類ごとの分離技術について、電気分解水で活性化した酵素反応を利用したバイオ技術を使って、天然繊維部分を溶脱させるという先導的なリサイクル施設です。</p>			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	管理本部		
	担当者名	田邊 和男		
	連絡先	電話番号	084-924-8509	
		FAX	084-923-3594	
E メールアドレス		tanabe-kazuo@ecolog.co.jp		

17.7.2 技術情報

キーワード	マテリアルリサイクル、再生 PET、繊維製品リサイクル		
技術名称	再生 PET 原料の製造技術		
技術の分類	加工・成型(再生品化)		
目的・用途	廃棄繊維製品等の再生 PET 原料化		
特長	1.酵素反応を利用したバイオ技術によるリサイクル 2.小型プラントで再生原料化が可能		
設備、製品等の写真、イメージ			
処理フロー図			
廃棄物の種類	産廃	廃プラスチック類	受入条件、形状 ポリエステル 100%及び綿や毛混合の場合ポリエステル 65%以上含有
	産廃	繊維くず	受入条件、形状 ポリエステル 100%及び綿や毛混合の場合ポリエステル 65%以上含有
供給資源・製品	再生 PET	形状	粒状
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	・焼却埋立処分されず新たな資源(再生 PET 原料)としてリサイクルが可能であり、排出者は CSR(社会的責任)を向上することができます。CO2 排出量の削減と枯渇性資源の節減による環境影響の抑制に貢献できます。
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	・CO2 削減量: 335g (C/kg) ・消費エネルギー削減量: 20,962(MJ) * 新規製造に対して
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	表彰歴 一般社団法人産業環境管理協会「平成 25 年度資源循環技術・システム表彰」会長賞受賞 (平成 25 年度)

17.7.3 実績情報


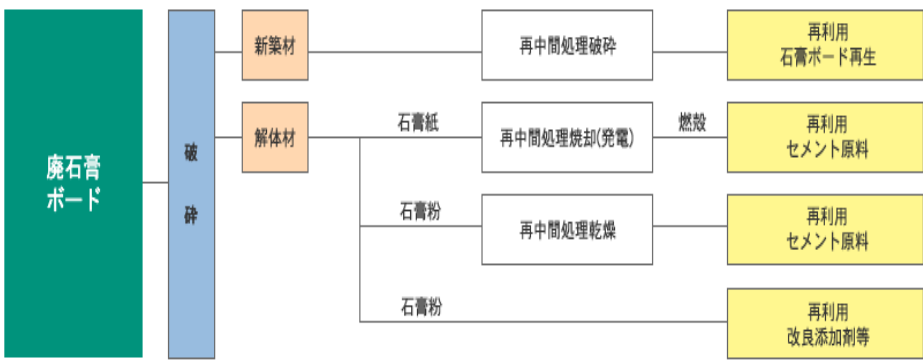
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	繊維くず・廃棄繊維製品	75	37	t
	廃プラスチック類	50	50	t
受入可能量	廃プラスチック類及び繊維くず	-	600	t
販売実績量の推移	PET	125	87	t
主な調達先	不織布製造業者、アパレルメーカー及び繊維製品販売業者			
主な供給先	原綿製造業者、射出成形業者			
技術開発の実績 (過去 5 年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・エタノール製造方法特許取得(平成 25 年) ・発酵濃縮装置および発酵濃縮方法。特許出願中(平成 24 年) ・セルロース系繊維廃棄物からの省エネ型バイオエタノール製造技術開発 (平成 22 年～24 年) 			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	2,500 万円を投じて、金型、裁断機、ブレンドミキサー、定量フィーダーなど導入し、再生 PET 原料を使用した大型射出成形品の射出成型技術開発を実施。			
補助金等支援策の活用 実績(過去 5 年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人広島循環型社会推進機構「循環型社会形成推進機能強化事業」(平成 25 年度) ・経済産業省「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」(平成 24 年度) ・広島県「産業廃棄物抑制・リサイクル関連研究開発費補助金」(平成 24 年度) ・独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 「新エネルギーベンチャー技術革新事業」(平成 22 年度～24 年度) 			

22.9 株式会社 NRS

22.9.1 事業者情報

名 称	株式会社 NRS			
本社住所	〒808-0021	福岡県北九州市若松区響町 1 丁目 79-1		
資本金、出資金	20,000 千円			
従業員数	60 人			
設立年月日	平成 20 年			
URL	http://www.nrs-inc.co.jp/			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物処理全般(木くず、紙くず、廃プラスチック類、ガラスくず、がれき類、金属くず、繊維くず、ゴム屑)を取り扱っています。 ・九州エリア及び山口県の収集運搬許可を有しています。 			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	管理部		
	担当者名	荒木		
	連絡先	電話番号	093-752-6100	
		FAX	093-752-6111	
E メールアドレス		araki@nrs-inc.co.jp		

22.9.2 技術情報

キーワード	廃石膏ボード			
技術名称	廃石膏ボードリサイクル技術			
技術の分類	破碎・選別			
目的・用途	分離した石膏粉は、石膏ボード原料・セメント原料として再利用します。石膏紙は、製紙原料として再利用します。			
特長	新築工事や解体の建設現場などから発生する廃石膏ボードを各業者様から収集し、リサイクルすることで環境への配慮はもちろん、大切な資源を無駄なく利用することができます。			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	産廃	ガラスくず	受入条件、形状	固形状・バラ

22.9.3 実績情報(1)

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	木くず	740	1,050	t
	紙くず	30	80	t
	廃プラ	1,110	1,580	t
	繊維くず	310	800	t
	ガラスくず	320	530	t

受入可能量	木くず	-	1,500	t
	紙くず	-	150	t
	廃プラ	-	1,700	t
	繊維くず	-	1,000	t
	ガラスくず	-	1,000	t
販売実績量の推移	再生石膏粉	-	530	t
主な調達先	主に建設業など			
主な供給先	主にセメント業、製紙業など			

22.9.4 実績情報(2)

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	がれき類	240	330	t
	廃石膏ボード	4,630	11,860	t
	混合廃棄物	11,250	9,330	t
受入可能量	がれき類	-	500	t
	廃石膏ボード	-	15,000	t
	混合廃棄物	-	12,000	t